

水俣の声を記録し伝える

熊本から全国へそして世界へ

熊本県民テレビ報道部 大木真美

<まずは自己紹介>

- 1960年 熊本県生まれ
- 1982年 熊本県民テレビ入社 業務部に勤務
- 1989年 報道制作部へ異動 報道記者に
- 1990年 長男出産
- 1995年 水俣病の取材を始める
- 1996年 ドキュメンタリー「水俣は終わらん」制作
- 2001年 ドキュメンタリー「未来への警告～
水銀汚染の現場から」制作
- 2004年 ～2014年 東京支社勤務
- 2014年 報道部へ異動 デスクをしながら水俣を取材
- 2016年 ドキュメンタリー「生きる 伝える」制作
- 2017年 ドキュメンタリー「私を見て～ミナマタから世界へ
魂の叫び」制作

私と水俣病の出会い

原田正純先生のお言葉を聞いたこと

1995年 原田正純先生にインタビュー



原田先生の言葉に心を揺さぶられた事がきっかけ

1995年 原田正純先生を取材

原田正純先生

「人類はお母さんがおなかの赤ちゃんを守るから生き延びてきた。
水俣で初めて胎盤を通して中毒が起こることがわかった。人類が経験したことのない毒物ではお母さんは赤ちゃんを守り切れない。それがわかったのが水俣病」

私は当時5歳の子どもの母親

さらに私の**母性**を揺さぶった原田先生の**言葉**

「『私の毒を子どもが吸い取ってくれたので私の症状が軽くなった』と
胎児性患者のお母さんが言うんだよ」

「胎児性患者の母親」をテーマに番組

NNNドキュメント「水俣は終わらん」1996年5月28日 全国ネットで放送



水俣病の取材そして番組の放送

◆私が取材を始めた時は全国で「水俣病問題」の放送が少なくなっていた。

◆短いニュースでは取り上げられるが、その背景を詳しく伝える全国放送の番組は少なかった

◆「なぜこんなことが起こるのかその不条理を伝えたい、

多くの人に見てほしい、見て考えてほしい」

⇒地方で起きていることを全国に向けて伝えるのも

ローカル局の使命

全国放送にこだわるようになった

この番組で伝えなかったこと

◆1995年10月 被害者が高齢化する中、行政の責任はあいまいなまま政府の解決策を最大の被害者団体が受け入れた。

⇒強引な幕引きが行われようとしていた情勢の中で、水俣で何が起きているのかその不条理を伝えたい。

◆胎児性患者の母親の声を聞いてほしい

⇒生まれてこなかったたくさんの命、生まれてきても幼くして亡くなった命、たくさんの命が失われたことを伝えたい。その母親の哀しみを伝えたい。

◆政府解決策では水俣病は終わらないことを伝えたい

「胎児性患者のいま」をテーマに番組
NNNドキュメント「未来への警告～水銀汚染の現場から～
2001年10月28日 全国ネット放送



この番組で伝えたかったこと

◆1998年11月 水俣市の中心部に胎児性・小児性患者が集める「ほっとはうす」がスタートした。

⇒40歳を過ぎた胎児性・小児性患者は体の機能の衰えや高齢化する親のことなどの不安を抱えている。「水俣病の象徴」として幼い頃から注目されてきた患者さんたちをこれからどうやって支えていくのか。患者さんたちの今を見ることで考えてほしい

◆2001年10月 水俣で国際水銀会議開催

⇒環境汚染は子宮の中を汚染することにつながる。生まれながらに水銀による障害を背負った胎児性患者さんの存在はそのことを警告しているということを訴えたい。

「水俣の子どもたち」をテーマに番組
NNNドキュメント「生きる 伝える～水俣の子の60年～
2016年5月1日 全国ネット放送

◆2016年5月1日・・・水俣病公式確認から60年
⇒公式確認の患者さんは幼い子供。胎児性患者さんの多くは公式確認前後に生まれている。60年前、汚染された海の近くにはたくさん子どもたちがいた。水銀は発達途上の脳に損傷を与えることがわかっている。水銀の被害を真っ先に受けたのは子どもたちだったはず。その子どもたちは今どうしているのか。

その約2週間前に・・・熊本地震 発生

公式確認の5月1日に放送するために・・・
NNNドキュメント「生きる 伝える～水俣の子の60年～
2016年5月1日 全国ネット放送



60年前に公式確認として報告された幼い女の子の今

NNNドキュメント「生きる 伝える～水俣の子の60年～」
2016年5月1日 全国ネット放送



胎児性患者と同世代でも水俣病と認められない女性

NNNドキュメント「生きる 伝える～水俣の子の60年～」
2016年5月1日 全国ネット放送



言葉を、書を紡ぎだす胎児性患者さん

NNNドキュメント「生きる 伝える～水俣の子の60年～」
2016年5月1日 全国ネット放送



この番組で伝えなかったこと

◆1956年5月1日 小児奇病が発生していると保健所に届け出・水俣病公式確認

- ⇒60年前、小児奇病と届け出られた幼い女の子は今も当時と同じ家でひっそりと暮らしている。まもなく3歳という時に身体の内も言葉も奪われた。60年の歳月を刻んだ姿を直視してほしい。命よりも利益を優先した過ちを忘れないために。
- ⇒水俣の“子どもたち”の中には症状を訴えてもいまだに水俣病と認められていない人がいる。汚染された海の近くで育ち、汚染された魚介類を食べた子どもたちがたくさんいるはず。顧みられなかった子どもたちの存在を伝えたい。
- ⇒公式確認から半年後に生まれた胎児性患者さんは生まれながらに水銀の被害を背負いながらも1日1日を大切に生きている。その人としてのありように心を揺さぶられる。絞り出すように語る言葉、紡ぎだす書から患者さんの命の尊厳を感じてほしい。生きることは何よりも尊い。

「生きることで水俣病を伝えている姿」を伝える

世界の水銀汚染防止のために胎児性患者の声を
NNNドキュメント「私を見て〜ミナマタから世界へ魂の叫び」
2017年10月29日 全国ネット放送



これから

- ◆水俣病はどんな時代になっても、その時起きた問題の核心を私たちに見せてくれる。立ち止まって考えるきっかけをくれる
- ◆「水俣で起きたことを二度と繰り返さない」という『原点』に立ち返ればおのずと進むべき方向を示してくれる。
いまを照射する水俣
- ⇒水俣に行き、水俣の声をきき、水俣を感じることで何を伝えるべきか考える
⇒伝えるべきことを考え、その視点で記録し伝え続ける
- <1つの目標>
- 身体の機能が衰え、言葉が出にくくなっている胎児性患者さんを知って
- もらえるような映像作品で、イベント等で上映できるものを製作したい。

この番組で伝えたかったこと

- ◆1972年6月 スウェーデンのストックホルムで開かれた第1回国連環境会議に合わせて胎児性患者の坂本しのぶさんとその母のフジエさんが渡欧。世界に水銀被害の水俣病を訴えた
- ◆2017年8月 国際的に水銀を規制する「水銀に関する水俣条約」が発効
- ◆2017年9月 条約を批准した第1回締約国会議がスイスジュネーブで開催され、45年ぶりに坂本しのぶさんが渡欧し「水銀被害を二度と起こさないで」と訴えた。
⇒45年前、しのぶさんの母・フジエさんは「この子を見て」と訴えた。45年後しのぶさんは「今の私を見て」と訴える。世界ではまだ水銀によって環境や健康が脅かされている。そして条約の名前になっているというのに日本でも水俣病を過去の事にしたような状況にある。そうはいかない。しのぶさんの「私を見て」という叫びを伝え「水俣病を見つめて」と訴えたい。水俣病と同じような構図は私たちの暮らしのすぐそばにあることを伝えたい。他人ごとではない。
⇒のっぺりとした一見美しい公園。その下に埋まっているのは水俣病を引き起こした水銀。公園が覆い隠されているように、水俣病そのものも覆い隠し忘れ去られるように意図されているのではないか。「虚構の象徴」である公園でしのぶさんを通して終わっていない水俣病を伝えたい。
⇒少ない言葉で人の心をつかむ素晴らしい感性のしのぶさんの事を多くの人に知ってもらいたい。しのぶさんを知ること水俣病を見てほしい。知ってほしい。

私からの提案

- ◆水俣を記録しませんか？自分なりのまなざしで
- ◆スマホでも一眼レフでも。できれば動画で
- ◆テーマはなんでもOK
- ◆SNSやyoutubeで発信しませんか？今は誰でも発信できる
- 時代。ただし人を傷つけないように配慮は大切です
- ◆本格的なドキュメンタリーを撮りたいならば、学生や一般
- の人を対象にしたコンクール等あります